



ゆずりがはもり

津島中のあゆみ

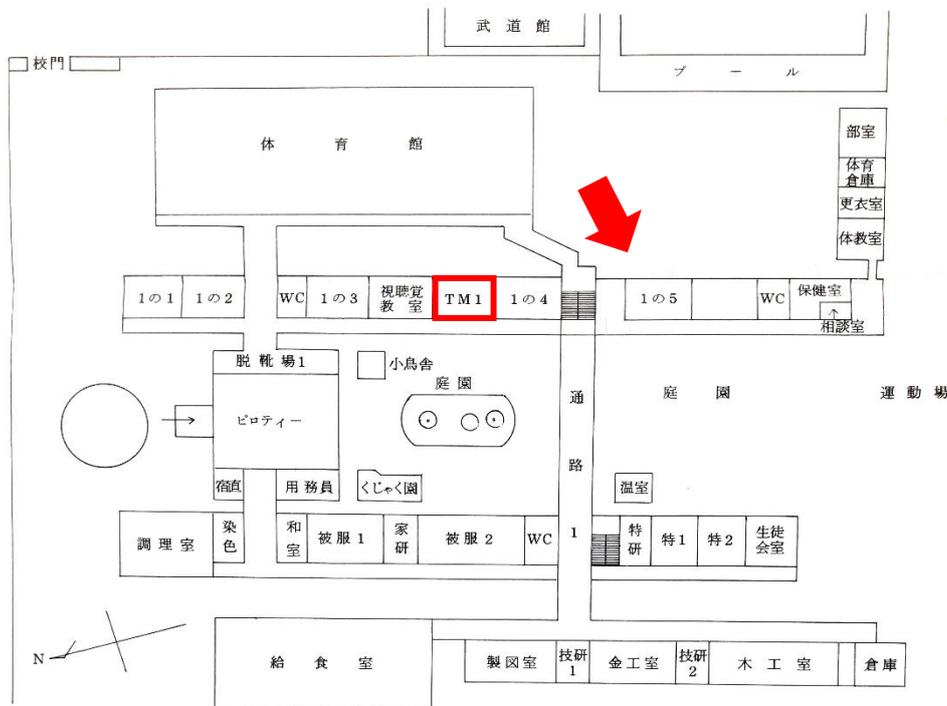
<校訓> 友愛・清廉・飛躍

文責：第17代校長 近藤 浩一

昨年度から始まった、ゆずりがはもり号外「津島中のあゆみ」も今回で第5弾となりました（過去の分は、津島中学校ホームページ【What is 津島中学校】→【学校通信「ゆずりがはもり」】から御覧ください）。今回は「津島中旧校舎その2」です。

今回は、旧校舎の内部を紹介したいと思います。下の校舎平面図は、昭和52年当時（私が中3の頃）のものです。右下の写真は、新旧校舎が両方写っています。旧校舎は、今のテニスコートの辺りにあったことか分かります。平面図で見ると、赤い矢印の方向から撮ったことになります。

校舎平面図

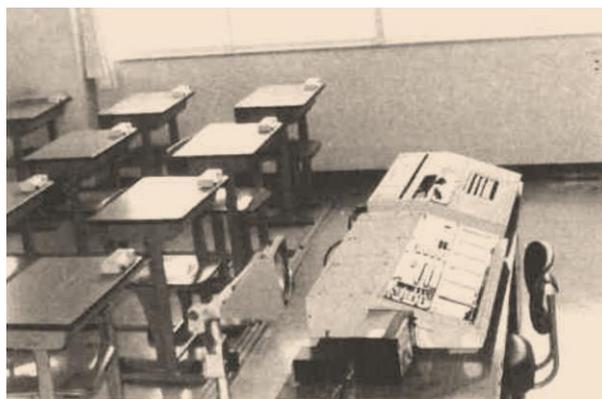


特徴的な3つの教室を紹介します。

TM教室

TMは、ティーチング・マシンの頭文字を取ったものだそうです。直訳すると「教える機械」となりますが、簡単に言うと、選択問題の「回答機」です。

生徒の机には、それぞれ4個のボタンのある箱が付いていて、生徒がそれを押せば、先生は前の表示機で誰がどのボタンを押したか一目で状況が把握できるというものでした。スイッチとランプを配線した簡単な機械ですが、当時は画期的だったそうです。



LL教室

LLは、ランゲージ・ラボラトリーの頭文字を取ったものだそうです。直訳すると「言語研究所」ですが、英語を話すトレーニングをする教室です。生徒の机には、それぞれカセットレコーダーとマイク付きヘッドセットがあり、ビデオを見ながら発音の練習をしていました。ビデオと言っても、DVDはおろかVHSもない時代だったので、大変高価でした。後にガラス張りの小部屋があり、先生が全体を見渡しながら機械を操作していました。



理科室・世界岩石センター

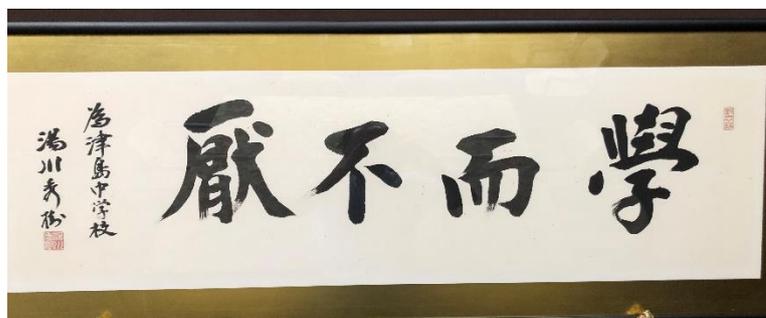
※理科室の写真がどうしても見つかりませんでした。

特別教棟の2階は全て理科関係の教室で、理科室が4部屋と理科研究室が3部屋ありました。また、廊下には、物理や化学の実験セット、生物や地学の観察セットが長机の上に置いてあり、壁には模造紙に研究の成果等がまとめてあって、「科学教育で全国に名を馳せた津島中学校」を象徴するような空間になっていました。

さらに、昭和46年には渡り廊下までの区域（校舎平面図の斜線部分）に世界岩石センターが設置されました。津島町出身の方の協力で集めた世界各地の珍しい岩石が壁に展示してありました。

校長室

教室ではありませんが、最後に校長室に掲げられていた湯川秀樹博士の書を紹介させていただきます。この書は、初代・山本英作校長先生たっての希望で、初代PTA会長の西崎一さんが、母校・京都大学でノーベル物理学賞を



受賞された湯川秀樹博士に揮ごう（毛筆で書を書くこと）を依頼されたそうです。湯川先生は論語の一節「学而不厭」（がくじふえん）を選ばれました。「学ぶことを嫌がらない」という意味だそうです。この書は、新しい校舎の校長室にも飾ってあります。